

教授内容および教授方法に関する検討

保健体育講座・浅井 英典

1. 授業の目的

本授業においては、呼吸循環機能、筋機能、立位姿勢時の平衡性機能等に関して、実験・測定実習を通して、人体の生理的応答について運動生理学の側面から理解させることを目的としている。

2. 授業内容

スポーツ健康科学課程スポーツ指導者養成コース及びスポーツキャリア開発コース、及び学校教育教員養成課程保健体育専修の2回生が受講した。本授業は、保健体育教室教員山本講師と合同で開講した。一般的な実習形式の授業では、様々な機器を活用するにあたり、測定機器の数が少数であるため、必然的にその実習に関与できない受講生が発生し、授業効率が上がりにくいことが往々にして見掛ける。そこで本授業においては、指導効率を上げるため、受講生をA及びBグループに分け、浅井（山本）がA（B）グループを第2～8週まで担当し、その後の第9～15週までB（A）グループを担当するローテーション方式を採っている。浅井が担当する授業内容は、1）スポーツを筋電図から検証する、2）床反力から見た各種運動の特異性を検証する、3）足底面の床接地状況と荷重状況を考えるであった。一方、山本は、1）無酸素性パワーを検証する、2）有酸素性運動を酸素摂取量から検証する、3）自己の身体計測結果を考えるであった。

上記のテーマにしたがって、各測定機器を活用した様々な測定を実習し、毎時間得られる各個人データを基に他の受講生のデータと比較しながら、身体の運動生理学的応答について解説と指導を行った。

授業評価は、次に述べるレポートを基に行った。レポートテーマは、本授業で取得した

様々なデータを基にして、受講生それぞれに自由にレポート課題を設定させた。

3. 授業評価方法

授業評価にあたっては、以下の4領域、13項目から成る質問紙を授業最終回に配布し、無記名で記入を依頼した。

1) 受講生自身に関して

(1) 授業への積極的取り組み

2) 授業の内容に関して

(2) シラバスと授業の適合性

(3) 授業内容や説明の分かり易さ

(4) 授業の進捗と毎授業の時間配分適切さ

(5) 授業内容への興味・関心度

(6) 授業内容の有用性

3) 授業担当者の授業方法に関して

(7) 資料や教育メディアの活用の有効性

(8) 質問等の機会設定と教員の対応

(9) 教員の意欲・熱意

4) 授業全体に関して

(10) 本授業に対する満足度

(11) 本授業の友人や後輩への推奨度

(12) 本授業の長所、短所、改善点（自由筆記）

(13) 最も興味が持てた授業内容（自由筆記）

(1)から(11)までの設問に対しては、次の3つの選択肢を用意した。

A. そう思う・だいたいそう思う

B. どちらとも言えない

C. あまり思わない・思わない

4. 質問紙調査結果および考察

授業最終週に受講した20名に対して質問票を授業終了直前に配布し、無記名で記入させた後、回収した。図1には、「1. 受講生の授業への積極的取り組み」、授業内容に関する「2. シラバスに基づいた授業」「3. 授業内容等の分かり易さ」「4. 授業の進み具合と時間配

分」「5. 授業内容への興味・関心度」及び「6. 授業内容の有用性」それぞれについて、3つの選択肢から選択された項の人数を示した。

受講生の授業への取り組みとしては、全員が意欲を持って授業に参加していた。授業内容に関してシラバス通りに行われたと回答した者は14名であり、6名がどちらとも言えないあるいは思わないと回答した。本授業第1週にガイダンスを行い、その際、15週間にわたる実習内容の資料を配付しており、6名が否定的回答したのかについては、不明である。

授業の分かり易さに関しては、18名が分かり易いと回答しており、設問12の本授業の長所として、実際に機器を使用してデータが示されることで、「分かりやすい」「面白かった」「興味を深めることが出来た」などの意見が出されており、この結果を裏付ける結果であると思われる。進捗・時間配分に関しては、14名が肯定的回答をしていたが、6名がそうではない回答をしていた。この理由としては、本実習で使用した機器の動作不良があり、その回復に時間を要したことが数回あったことが原因と考えられる。

授業内容に関する興味・関心は、18名が肯定的回答をしていた。これも前述したように実際のデータが示されることで、受講生が考えていたことと逆の結果が提示されたりした。例えば、様々な動作や運動を行った際の主働筋と拮抗筋の関係に関しては、これまでの誤った理解が正された場面が多々見られたことに由来していると思われる。授業内容の有用性については、15名が肯定的回答をしていた。これは、今後、彼等がトレーニングを行っていく際に有用な情報になり得ることを示していると思われる。

教育手段、授業でのコミュニケーション、

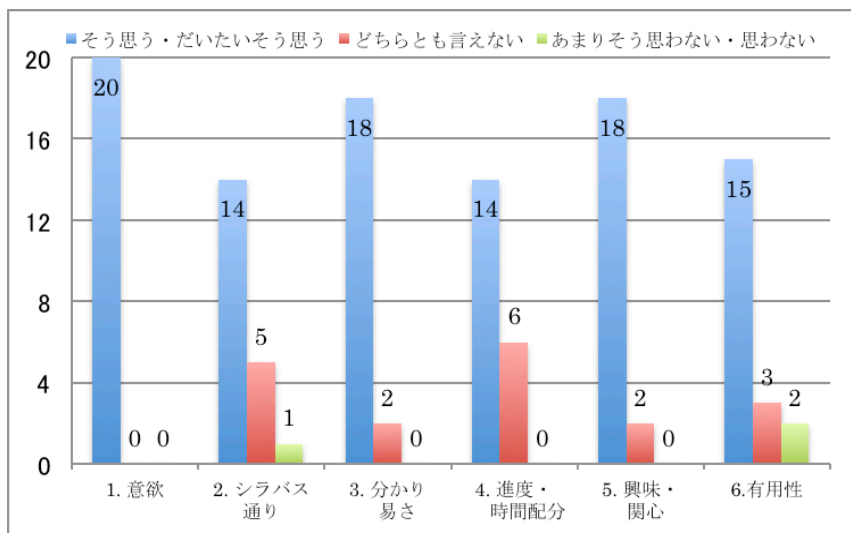


図1. 受講生の取り組み及び授業内容に関する質問紙調査結果
(縦軸：回答者数，横軸：質問項目)

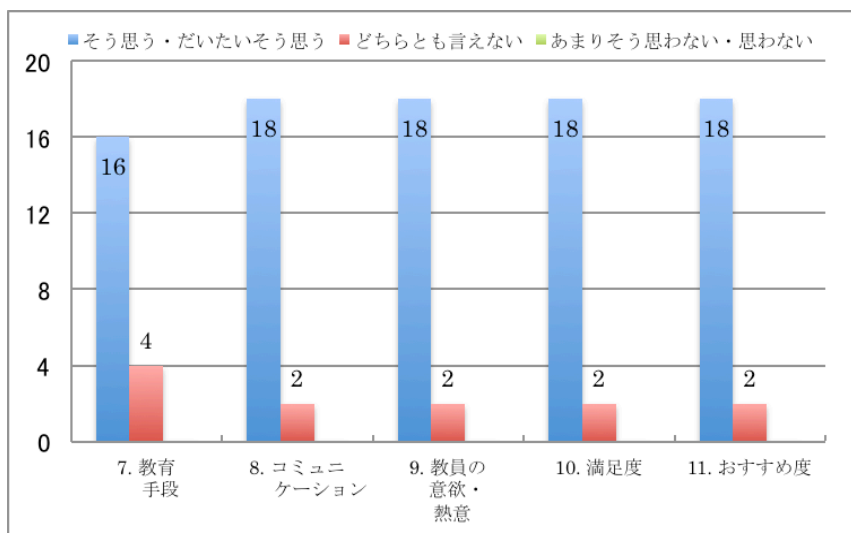


図2. 授業方法及び授業全体に関する質問紙調査結果
(縦軸：回答者数，横軸：質問項目)

教員の意欲・熱意、満足度及び他者への推奨度は、図2に示したように20名の中で16～18名が肯定的回答をしており、指導側から見れば十分望ましい結果であったと思われるが、次年度以降に於いても更なるブラッシュアップを行っていく必要があると思われる。また、自由記述による授業の良かった点では、様々な機器を使用し、毎回の授業テーマについて実証的なデータが示されたことが（視覚的にも）分かり易かった等の記述がなされていた。興味を惹かれた事項については、足底面測定（14名）、ウィングテスト（8名）、運動負荷テスト（4名）、筋電図（4名）等が挙げられていた。

次年度は、データ収集の円滑化を図り、より多くのテーマを取り扱っていきたい。